



東区幼保小連携推進協議会便り

令和4年度第2号 2022.11発行 東区幼保小連携推進協議会代表者会

令和4年10月18日、東苗穂小学校を会場に、「第2回東区幼保小連携推進協議会」を開催しました。第1回同様、各施設から1名のみでの参加でしたが、皆様の御理解と御協力で充実した時間となりました。

テーマは「**幼児が遊びを通して体験していることを見取ろう**」とし、遊びの写真(海賊船ごっこ、コマ回し勝負)から、

- ①子どもたちが考えていることや体験、育ちを読み取り
- ②「**幼児期の終わりまでに育みたい姿(10の姿)**」を視点に、遊びで見られる姿や育ちつつある力を洗い出し
- ③小学校の生活や学びにどのようにつながっているか、小学校につながる「**資質・能力**」を育むために幼児期に大切にしたい体験とは何かという流れで意見交流しながらブロック研修を進めました。



年長児のコマ回しの遊びから

「10の姿」について確認、予習するなど準備していた方が多く、どのグループでも遊びの写真を囲んで活発な話し合いが進められていました。また、司会を担当した小学校の皆様にご感謝申し上げます。

当日の話し合われた内容をもとに園内・校内で更に話し合いを深めていただき、4月までの就学に向けた取り組みの工夫、改善と東区の幼小連携・接続の具体化につなげてまいりましょう。



1. ブロック研修～幼児の遊びの見取りから

◎遊びの中に様々な経験や幼児の気付き、学びがある

- ・遊びの中で一人一人の興味や**したいことが認められる経験**が保障されている
～健康な心と体、自立心、主体性、達成感、自己有用感、自己肯定感
- ・遊びの中で見立てる、想像する、イメージを膨らませる、身近な材料で作る経験の積み重ね
～**豊かな感性や表現力、物を扱う技能**などが育まれているのではないか
- ・友達の存在で伝えたい思い、伝わる満足感、表現力、話す力、聞く力～**言葉による伝え合いの経験**
- ・友達と関わる経験から～物を介してやり取りする経験、**他者を意識する経験**、役割分担、協同性
道徳性・規範意識、コミュニケーションの力が身に付いていこう
- ・考えを巡らせる経験～**思考力の芽生え**、試行錯誤、**文字や数量・図形への関心・感覚**が育まれる
繰り返し挑戦したり継続して遊んだりできる**時間も大事**なのでは
- ・遊びのルールや約束を考える～遊びを楽しくしようとする意欲、**折り合いを付けようとする経験**

この子は、友達の方に目線と姿勢が向いています。うまくいか気にしているのでは？日頃の関係が見えますね。

「やってみたい！」と夢中に遊んでいるのがわかります。

トラブルがあると、小学校では、なかなか子どもたちだけに任ず、焦って解決させてしまっているかも…。時間に限りがあるから難しい面もありますが。

保育者は、遊びを見守り支えるために居場所や子どもたちとの距離感を大事にしています。

コマ回しでは、回し方や勝負の仕方など、試行錯誤していそう。勝ち負けの経験も必要ですね。

遊びの場所を作るためには、友達と力を合わせたり、相談したりしているでしょうね。



2. アンケートより

◎「10の姿」を視点に 遊びを読み取り 気付いたこと、学んだこと

- ・遊んでいる姿を通して、様々な発達、生きる力の成長過程がみえてくるということに改めて気付いた。
- ・保育者が日頃大切にしていることでも、小学校教諭には馴染みがないことがあることを知り、自分たちが気付かない目線の話の聞くことができた。
- ・写真からだけでも、「10の姿」に結びつく様子をたくさん見取ることができた。普段遊ぶ姿(生の姿)からは、さらにもっと多くの姿が見えるはずだと気付いた。
- ・「10の姿」が達成目標ではないこと、「10の姿」の考え方や取組、保育者の思いを知ることができた。
- ・遊びの中で経験していることが、入学してきた子どもたちの土台になっていることを実感した。
- ・「10の姿」は一つ一つ独立しているのではなく、それぞれがつながることで広がっていくと分かった。
- ・遊びには正解のない学び(育ち)がたくさん生まれている。子どもたちの自然で素直な思考から社会生活を送る上での土台となる力が育っていく。小学校ではそうした機会が少ない。小1ギャップに苦しむ子は、本当はまだ「遊びの中」で力を付けていきたいのかもしれない。



◎幼児教育と小学校教育をつなげるために

- ・幼児期から一人一人に合った適切で連続的な支援とそのための連携が必要
- ・各園で入学に向けて考えて取り組んでいることを受け、入学後の生活に楽しく慣れていくための手立てを
- ・遊びの中で育まれるコミュニケーションや言葉による伝え合いが社会性や豊かな表現へつながる
- ・幼児期に育まれた自信を尊重し、小学校でさらに伸ばしていくことが大切
- ・幼児、保護者、保育者が感じている小学校への壁や不安は、小学校の中が見えないからでは？小学校は「集団で様々なことに楽しく挑戦できる場所」ということ伝えたい
- ・幼児期に、道徳性や規範意識を大事にしながら活動の中で思考力を働かせ、工夫したり協力したりすることを大事にしていることが分かった
- ・全員が同じ育ちではないことを踏まえて受入れの計画をし、全体の中でも個々の育ちを丁寧にみていく
つながりを意識した教育課程の編成へ!

◎幼児期に大切にしたい経験

～小学校以降につながる資質・能力を育むために～

- ・「楽しい」「できた」「やればできる」「やってみたい」と思える経験の積み重ね
- ・経験の過程を大切にし、子どもの姿を認め成長に気付かせてあげることで意欲や好奇心の育み
- ・「安心感」「自己有用感」「自己肯定感」
～温かい関係、一人一人が大事にされる生活
- ・自信を付け、自立できるように～乗り越える経験
- ・「聞く力」「考える力」「話す力」の土台づくり
- ・協同性や自立心を育む経験
～共に楽しみ共に活動する大切さに気付く経験
- ・けんかの中で双方の気持ちに寄り添い子ども同士の伝え合いを大切に
幼児期も小学校以降も必要な経験は共通!



3 感想から

「10の姿」を当てはめることで、子どもの姿がより分かりやすくなるが、**達成目標でないことを忘れずに**保育していきたい。(保育者)

写真だけで子どもたちが何を考え、体験しているのか理解することに苦労した。**もっと柔軟に子どもの思考や体験を想像していかなければ**と思いましたが。(小学校教諭)

小学校の先生たちは、写真の全体像からの視点、保育者は全体像+個々への視点という大きな違いを改めて感じた。(保育者)

実際に「10の姿」を視点に子どもの姿を捉える機会が、これまでに少なかった。(小学校教諭)

保育者が全て提供するのではなく、**子どもたちの学びや動きをしっかりと見守ることも大切**だと気付いた。(保育者)

単に『遊び』といっても、そこにたくさんの育ちや育てたい力を踏まえた手立てが盛り込まれていることが分かった。
(小学校教諭)

子どもたちの世界観を大切にしていこう。(保育者)

人との関わりについての育ちや、**自己有用感を高めていけるような活動を大切**にしたいと思った。
(小学校教諭)

4 各園、各校での連携・交流の実施状況～事前アンケートより

参加集約の際のアンケートの記載をもとに、当日はあゆみ幼稚園、栄保育園、栄北小学校 3つの園、学校に代表して報告していただきました。その他の施設からの報告も含めて御紹介します。昨年度よりできることが増えているようです。連携・交流のヒントになりますね。



栄保育園

《職員同士の連携・交流の取組》

- ◇入学時の引継ぎ～特別支援コーディネーターが来園して、電話で
- ◇電話で「気になる子」への対応相談から保護者の学校見学の実現へ
- ◇1学期授業参観+卒園児の近況報告、情報交換 ◇研修会(講演会)
- ◇保育参観、授業参観で交流(1日1名ずつ参観に行き来できる日程を計画)
- ◇授業参観+スタートカリキュラムや互いの園、学校の課題について意見交流
- ◇小学校の先生(主に教頭先生)に小学校入学準備についての保護者向け懇談を依頼



あゆみ幼稚園

《子どもたちの体験、交流として》

- ◇運動会の練習を見学 ◇学習発表会の観覧 ◇ビデオレターや手紙の交換
- ◇小学校の校内探検 ◇体験入学(授業体験) ◇園行事に小学生を招待
- ◇5、6年生の総合学習～職場体験学習や街探検などで幼稚園、保育園へ



栄北小学校

《その他》

- ◇就学準備の一つとして、園児が利用しているデイサービスなど療育機関の方と情報交流し、保護者との育ちの共通理解や入学に向けての準備に生かしている。

～編集後記～

今年度は、第1回に続き第2回も予定通り参集の形で実施できました。始めは静かでしたが、それは写真から読み取ることに集中していたから…。気付きや意見を交流し始めると、話が止まらなくなるほどでした。

子どもの学びに「主体的・対話的で深い学び」が欠かせないように、保育者、教師も相手の表情や動きを感じながら、聴いてもらう安心感のある対話を通して、学びがより深まることを再確認する機会となりました。園、学校が、子ども、保護者、みんなにとって声を聴いてもらえる温かい場所であり続けるために、これからも手を取り合ってまいりましょう。

《第3回》

幼保小連絡会(引継ぎの会)

日時: 令和5年1月12日(木)

※電話での引継ぎになります。

※時程等の詳細は、別途お知らせがあります。